



編集/コンビニの会事務局
連絡先/〒452-0822 名古屋市西区中小田井 2-431
TEL/FAX(052)505-6082(コンビニハウス)

障害をもつ人たちの地域生活を支援する

特定非営利活動法人
コンビニの会

定価/150円
昭和54年8月1日第三種郵便物認可

第115号



まるで太古からの湖であったように水を貯える牧尾ダム

山と森からの恵み

カメラマン 安藤 吉郎

国土の約7割を山と森が占める日本は、自然災害や鳥獣被害も多いが、山に畏敬の念を抱きつつ、親しみ、恵みを受けながら暮らしと文化を育んできた。三重の海沿いの街で育った子供の頃、遙かな山の稜線は遠い世界だった。近年、中高年の「日本百名山めぐり」、その後の「山ガール」といわれるように登山する人が増えているようだ。私もたまに山歩きをするが、汗をかいた後の爽快感や達成感とは他では味わえない。手軽に行けるおすすめは春日井高蔵寺ニュータウンの裏手にある三山(道樹、大谷、弥勒)。いずれも500メートルにも満たない低山だが、都市緑化植物園を起点に尾根への道がいくつかある。

三山が繋がる尾根道は東海自然歩道で、頂上からは御嶽山や中央アルプスも見渡せる。よく見ると高蔵寺の地域を愛知用水が流れている。逆上れば木曾川、霊峰御嶽山の麓、御岳湖(牧尾ダム)に辿り着く。

(次頁へ)

長野王滝村から木曾町にまたがる水源だ。愛知用水は当初、ため池と井戸水に頼るしかない尾張東部、知多半島の農業用水として計画されたものの、高度経済成長と相まって、都市用水、工業用水としての側面を拡大していった。ちなみに高蔵寺地域では飲み水として利用されている。蛇口、バルブをひねれば水が出てきて、好きな時に好きなだけ水を得るのが当たり前の時代。愛知万博も愛知用水がなかったら開催は不可能だったといわれる。水源地周辺の木曾谷は素晴らしい森がたくさんある。中でも赤沢自然休養林は「森林浴発祥の地」と知られ、平均樹齢300年のヒノキの巨木・美林が広がっている。最近では、森林セラピー（療法）が注目され、生活習慣

病予防など医学的な証拠に裏付けされた森林浴効果だ。ポイントはゆっくり歩いて五感を研ぎ澄ますことだという。森に囲まれて生活している長野県民が日本一の癌死亡率の低さ、長寿であることもうなずける。



心身に元気を取り戻す森の癒し

雑記 ごまめの歯ざり

「子どもたちの大震災」
ネパールの大地震から二カ月、現地では雨期に入ったというメールが義弟から届いた。学校も再開し、計画停電が又始まったらしい。とはいっても、自宅が半壊、全壊した人たちは、まだまだ外でのテント生活を余儀なくされている。仮設住宅が普及したという話はまだ届いていない。

そんな中で義弟たちは、地域のつながりや今までいただいたご縁を生かした組織を結成して、募金活動や支援物資を届けている。子どもたちも支援物資の配布や搬出準備を手伝ってくれているという。防水シーツなどを、テント生活をしている方のもとに届けに行った時、被災している方が御礼にチョコレートを手渡そうとして下さったのに、子どもたちは決して受け取らなかったそうだ。食べるものがなくて、お菓子で飢えを凌いでいる人たちがいることを分かっているのだ。

「学校の再開が遅れ、勉強のことは心配ですが、彼らの人生にとって大きな何かを学んでいるのかもしれない。地震がトラウマになるのではなく、生きる力を身につけてくれたらと思います。地震が起きてからは家族6人が横一列になって寝ています。家族の絆が安心に、そして生きる力になるのかもしれない。」（義弟のメールより）

子どもたちは数年前、日本語補習学校の仲間たちと「東日本大震災のチャリティーコンサート」を開いてくれた。そんな彼らのために今度は私達に何ができるのだろうか。今は見守るしかないが、この秋日本に帰って来てくれた時には、畑で泥まみれになって一緒にイモを掘ろう！

海外で戦争する国にはならない＋1アクションを

立命館大学 特別任用教授 峰島 厚



憲法9条の解釈改憲を許すな

● 戦後の保守政権ですら

踏み出せなかった暴挙 ●

自民党と公明党を与党とする安倍内閣は、戦後70年、歴代保守政権ですらできなかった憲法9条の禁、集团的自衛権の不行使、武器輸出禁止三原則、ODAの軍事支援禁止を投げ捨てる閣議決定をし、今、集团的自衛権の行使を容認する安保法制を国会審議にかけてきています。

インド洋、イラクに自衛隊を送り出した小泉内閣ですら「派遣」「非戦闘地域」でしたが、今回は、海外どこであっても「戦闘地域」で「人殺し」する「派兵」です。ここ数年ノベル平和賞の候補にあがる憲法9条への冒涇＝解釈改憲です。

● 即実行の危険性をもった海外派兵 ●

この海外への派兵、アメリカの世界戦略の現段階に即したものにだけに、即実行という非常に危険な現実性があります。この間、世界で戦争をしてきたアメリカです、財政破綻に陥りつつあり、国民の厭戦意識も広がっています。そして直接介入から路線転換し、アジア太平洋重視施策をとってきています。今でも、イランやアフガニスタンの後方、間接介入の諸問題が日々報道されているところ。今すぐにも自衛隊の応援を、これがアメリカの戦略であり、それに応えた施策なのです。

● 平和な社会でこそ生きる憲法25条 ●

国会では与党が推薦した人も含めて3人の憲法学者がそろって「憲法9条に反する」

と明確な審判をしました。連日、反原発に匹敵する9条を守る集会やデモが開かれてきています。しかし安倍内閣は広範な世論に耳を傾けようとしていません。

私たちは、絶対主義天皇制のもとの戦争、原爆投下と、戦争が障害者を作り出し、いかに悲惨な状況に追いやるのか、知ってきました。私たちは民主主義の大切さとともに、平和でこそ生きる憲法25条・生存権の大切さを苦い教訓にしてきたのです。戦後70年はこのもとにあるべきです。悪法を廃案にせねばなりません。

戦費調達のための社会保障費削減を許すな

● 隠されている本年度予算の防衛費突出 ●

戦争は膨大な費用を要します。防衛費増は戦争に役立たない費用、社会保障費の大幅削減とセットでしかできません。

本年度予算、全体では昨年比0.4%増でしたが、社会保障費は3.3%増、防衛費は

2. 2%増で、伸び率の第一位と第二位でした。しかし社会保障費の一つ障害者福祉では報酬単価がマイナス1・78%でした、介護保険もバツサリ減額でした、どうなっているのでしょうか。じつは社会保障費の増額分には、自然増減額分、消費税増分、基金積み立てなどが含まれており、実際は0.4〜0.5%増でしかありません。

すなわち今年度予算は防衛費突出・社会保障費削減なのです。すでに戦費調達予算は始まっているのです。

● 防衛費突出を固定化する財政計画も ●

しかも今、この社会保障費削減を固定化する経済財政計画が隠されながら議論されています。社会保障費の増額を毎年6000〜7000億円に上限を付けてしまう計画です。

歳出抑制計画ですが、防衛費は例外、社会保障費の重点削減です。社会保障費の伸び率は毎年0.4〜0.5%となり物価上昇を考慮すると減額です。公然たる、防衛費突出

社会保障費削減という戦費調達予算体制が狙われています

● 財源はある。

「戦争」ではなく「バター費」に！ ●

これまでは、「国に財源がないから」と社会保障費は必要に對して抑制されてきました。しかしウソだとはつきりしました。社会保障費は削減しても防衛費は増額しているのです。海外で戦争する戦費にせず「バター費」、国民の主たる栄養分、社会保障費に回すべきです。

軍事施策Ⅱ

大量の社会保障難民の創出を許すな

● 「海外で戦争している国」の

社会保障難民 ●

「海外で戦争をする国」になったら街はどうなるのか、それは意外と身近にある国、アメリカや韓国となります。

徴兵制での短期間では「人殺し」という最

大の人権侵害ができる兵士を養成することはできないでしょう。だから兵士の多くは志願兵と考えられます。それが大量に補充される仕組みがあるのです。

アメリカと言えば、1%の国民に99%の富が集中しているといわれるように、日本よりも貧困率が高く、格差は大きくあります。そのうえに公的社会保障はわずかで、お金がないとサービスが利用できません。すなわち低所得者層が多く、そこから大量の社会保障難民が創出されているのです。

収入を増したければ、家族内の福祉ニーズを満たそうとしたり、3食が出て給料ももらえる軍人に家族の誰かが、という道が常に用意されているのです。

アメリカでは、約200万人がイランやアフガニスタンの戦争から帰還し、約50万人が心の病に陥っていると報道されています。明らかに「人殺し」を志願した人ではありません。低所得からの脱出や福祉ニーズをもつ家族のためにやむを得ず志願したのではな

いでしようか。

● 低所得者を社会保障から

締め出す改悪Ⅱ軍事政策 ●

生活保護を利用する基準が引き下げられています。これは無料でサービスを利用できない生活保護周辺の低所得者増の施策です。非正規雇用の固定化も同じ施策です。すでに貯蓄ゼロ円の人が3分の1になってきています。

そして、例えば入院時食費が260円から400円に値上げされました。低所得の人には月負担上限額制度(約5-7万円)があるのですが、限度額内で使えるサービス量が引き下げられようとしているのです。これから計画されているサービス利用者負担増はその負担上限額内あるいはその前後の値上げばかりです。低所得に加えてさらに生活を切り詰めるという実質的な値上げです。受診時の定額負担、さらなる生活保護の基準引き下げ、介護の2割負担対象者の拡大、生活援助と福祉用具の原則自己負担化、救急車の自己

負担等々が計画されています。サービス利用を抑制せざるを得ません。

日本でも大量の低所得者の社会保障難民をつくり出すことが狙われているのです。

● 社福法人を社会保障難民対策Ⅱ

軍事施策に駆り出す社福法人制度改悪 ●

制度の谷間と

なる大量の社会

保障難民を創出

する一方で、その

人たちに対する

公的責任を放棄

して、その人たちが

暴動を起こさ

ないようと、社福法人を無償で駆り出す

(公益的取組み) 制度改悪も、今国会に上程

されています。

無償で職員を駆り出しますから、現利用者の

処遇水準も下げることになります。さらに

これまで谷間にいる人たちに取り組んでき

たNPO法人等への補助事業費の減額とセ



ットです。NPO等の活動を制限し、かつそこで蓄えられた技術等の専門性も軽視されます。

人的余裕もない社福法人です。物的サービスの提供はそんなにできません。

障害児者の家族から

人殺しする軍人を出してはならない

現在、障害福祉サービスを利用している障害者の93.4%が、児世帯の16.4%が低所得以下の状態です。障害者の場合は多くが家族の家計に依存しています。

「海外で戦争できる国」政策が具体化されると、家族の誰かが入院したり、介護が必要となったり、失業する羽目に陥ったら、即、その費用をどうするのかと考えざるを得ない状況になります。

障害児者の家族から海外で人殺しする軍人を絶対に出してはなりません。

2015年6月25日脱稿

福祉と戦争

～ 職員 の立場から ～

生活支援部 主任 榊原 芳典

先日、「敗北を抱きしめて」※（ジョン・ダワー氏 著）を読む機会がありました。

戦後直後の日本の様子が生々しく描写され、特に印象的だったのは終戦後の悲惨な食糧事情でした。そうした貧困の原因は、一部の政府・官僚の物資の独占や対策の遅れでしたが、その問題に対する国民の不満がGHQやマッカーサーを受け入れる土壌となったと説明されていました。

また、日本国民が平和・民主主義を驚くほどの早さで受け入れ、順応した点も特筆されていました。それまでの軍国主義や天皇制からの変わり身の早さに、当時の社会学者達は喜びと同時に危惧も抱いたとありました。もし、苦しみから助けてくれる存在がフアシズ

ムでも、同じように受け入れたかもしれないかもしれません。逆に言えば、それほど国民の生活は逼迫していました。そんな戦争の実態を自分たちはどれほど理解できているのでしょうか。

昭和の終わりに生まれた自分にとって、戦争というものを強く意識したのは、二〇〇一年に起きたアメリカ同時多発テロでした。ビルに激突していく飛行機の映像が、速報で繰り返し流された夜のことを今でも鮮明に覚えています。

その後、アフガニスタン、イラクで戦争が始まりました。メディアを通して伝わる戦地の一般人の姿は凄惨そのもので、軍人でもないのに誤って攻撃されたり、酷い怪我を負っても、設備や物資が不足して手当てもできない状態であることを知りました。

愛する家族や友人が目の前で苦しんでいるのに、どうしてあげることもできない気持ちを想像すると、自分も子をもつ親としてやりきれない思いに駆られます。



そんなにも恐ろしい戦争から、今日に至るまで日本国民を守ってきたものは何だったのでしょうか。

それは憲法九条の存在だと自分は考えています。交戦権を否定し、戦地にも行けなくすることで、国家が戦争に巻き込まれる事態を未然に防いでくれたと思います。また、憲法が効力をもつように尽力し続けた民主団体の働きがなければ、立派な条文も砂上の楼閣となっていたかもしれません。その運動の根底には、戦争を体験した世代の「戦争だけは二度と嫌だ」という痛烈な願いが込められていたのだと想像できます。

そうした世代の方達が亡くなり始めていくため、自分も含め戦争を知らない世代が、先人達の願いを汲み取っていかなくてはなりません。しかし、現在審議されている集団的自衛権の議論を聞いてみると、日本はこれからのどのような社会を目指すのか不安が募ります。

安全保障と憲法九条の問題はこれまでも幾度となく議論されてきました。現行憲法、特に九条は時代に合っていないので改憲が必要だという意見もありましたが、安易に答えを出さずにせめぎ合い続け、結果として七〇年もの間、戦争行為で疲弊することなく社会の増進に力を注ぐことができました。

日本の社会福祉・障害者福祉が充実しているとは言えませんが、もし積極的に戦争に参加していたら、福祉の拡充はさらに遅れていたのではないのでしょうか。安倍内閣の二〇一五年度予算では、社会保障費は大きく削減され、過去最高の防衛費が決定しました。顕著に影響を受けた高齢者分野は、報酬の低下から事業運営の見直しを迫られました。この方針が続けば、自分たち障害者福祉の現場にも必ず影響が現れます。

財源が不足すれば、障害のある方のサービス量や、支援に携わる介助者の報酬はさらに削減されてしまうと思います。そもそも、福

祉サービスは基本的な人権が保障されている社会、人の命が大切にされる社会の中でしか成立しません。戦争やその準備を進める社会の中では、国家の都合が優先され、個人の権利は踏みにじられてしまいます。とりわけ、障害者、高齢者、児童など、国家から見ても歴史的ではない対象が冷遇されてきたことは歴史を顧みても明らかです。

しかし、その経験があるからこそ、障害者福祉に携わる者は戦争を否定し、平和を希求しなければならぬのだと思います。作家の大江健三郎氏は一九八〇年代初頭「核シエルトアの障害児」と題して、定員が決まっているシエルトアに障害児の居場所はあるだろうかと問いかけました。また、神戸大学の二宮厚美先生は炭鉱のカナリアに例えて「障害のある方は社会福祉や憲法のカナリア」だと話されました。

障害のある方や自分たち支援者は、生活や仕事が社会福祉の進退と密接に結びついて

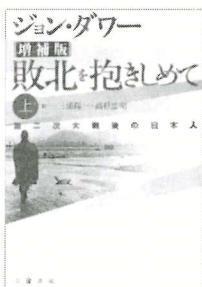
いるため、人権や福祉を軽んじる社会へと進み始めた時、真っ先に気付く立場にいます。カナリアのように周囲にその危険を知らせる役割を担っているとすれば、今がまさにその時なのです。



出版社 岩波書店

増補版 敗北を抱きしめて(上)

第二次大戦後の日本人



増補版 敗北を抱きしめて(下)

第二次大戦後の日本人



著者 ジョン・ダワー (John W. Dower)
 訳者 三浦 陽一・高杉忠明・田代泰子

★ 新人職員を迎えて

今年度、新人職員として女性2名が入ってきてくれました。私にとっては初めての年下の女性職員です。彼女たちは学生の時からアルバイトヘルパーでコンビニハウスに関わってくれていました。しかしアルバイトとして働くことと、職員としての役割を果たすことの間には違いがあると思います。新たに常勤職員に加わった彼女たちは学生時代とは違う大きな課題に直面しているようにみえます。

法人の方針として、現場での個別育成に力を入れるようになり、段階を踏んだ引き継ぎを始めています。

私も学生の時にコンビニハウスでアルバイトをして大学卒業と同時に職員になりました。私が新人のころは引き継ぎ期間が短く、「見て覚えて！」が多かったので「1回で覚えなきゃ」と必死でした。見様見真似でやっ

てもうまくいかないことも多く、先輩職員の様子を見ても、どうやっているのかわからず、自分がどう動いたらいいのか、何をしたらいいのか悩んだこともありました。

自ら育ち、育てることについて

生活支援部 職員

世古 香緒里



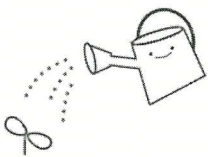
に丁寧に伝えようと思っています。

また、先日の研修で、職員一人一人がレベルアップすることで集団としての質をあげることが大切だと伺いました。本当は常勤、非常勤を問わず、同じレベルの介助力が求められるにも関わらず、自分とヘルパーさんの役割を分けてしまっていたことに気がきました。

例えば、利用者の気持ちや体調に配慮しながら1日の流れを組み立てていく事や、自分と利用者だけでなく他のヘルパーや通所先の職員との連携をとること等を経験する機会を与えてきませんでした。学生さんにもそこまで任せ過ぎると負担になってしまうのではと思い、職員と一緒に介助に入る時は職員がやってしまっていました。そのことでヘルパーから職員になったばかりの今、経験の乏しさが彼女たちを戸惑わせてしまっていると感じました。

そのような反省から今は先輩と後輩で一

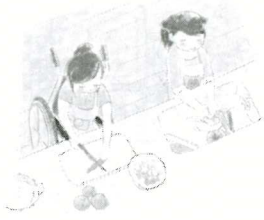
つの介助現場を担当することが多くなりました。様々な場面で自分ならどう動くかを考え、それを言葉や動きで表現し、新しい職員



私にとって後輩に教えるのは初めての経験でうまく言葉で伝えることができず、伝えることの難しさを実感しています。そこで先輩職員と介助方法や引き継ぎ方法について話し合う場をつくりました。これまでは一人暮らしの利用者宅へ個別で支援に入るため、他の職員がどのように介助や引き継ぎを行っているのか知る機会がほとんどありませんでした。場を持ったことで、それぞれのやり方を知ることができ、後輩やヘルパーさんに伝えるときの選択肢が広がりました。

★ 自立生活応援団として ★

私がエゼル福祉会に就職したきっかけのひとつにアルバイトをしていた時に一人暮らしをしたいと希望している利用者さんの存在があります。その人たちが応援したいという思いがありました。



この5年間で自立生活をする利用者さんが増えました。自立生活では、ご飯は毎日自炊をしないといけない、今までは両親がやってくれていた生活のすべてを自分でヘルパーに伝えないといけないと頑張っている姿を見てきました。私も一人暮らしをしています。が、ごはんを作りたいときはお菓子で済ませてしまうなど時々手を抜いて身体を休めたり、他にやりたいことのために時間を使ったりします。自立生活という何か特別なもののような感じがしますが、自分の事を考えてみても生活は頑張るものではないと思っています。自立生活を始めてすぐには力の抜きどころが分からないと思いますが、一人で頑張らずに頼めるところは頼んでもいいのだと、もつと楽な気持ちで生活を楽しんでもらえるように支援していきたいと思えます。

私は今年で職員として5年目になりました。この文章を書くことが決まった時、1年

目のときに上司から「5年後はどうなっている？5年後は先輩Sさんの年だよ。」と言われたことを思い出しました。その当時のSさんはヘルパーさんにも介助方法を論理的に説明でき、利用者さんやヘルパーさんの話を一生懸命聞き、相談にのっている頼りになる先輩という印象がありました。

今の私が5年前のSさんのような職員になれているか自信はありません。しかし、ヘルパーさんがアルバイトに来やすい雰囲気をつくるのは得意なほうだと思います。これからもアルバイトに来やすい雰囲気を作り、一緒に利用者さんの生活を応援できる仲間を増やしていきたいと思えます。そして利用者さんが安心して介助を任せられるヘルパーさんを増やすために苦手な部分に対しても、やれることは何かを考え、先輩職員を手本にして克服できるように頑張りたいと思えます。

事務局コーナー

「ご協力ありがとうございました」

5月～6月（敬称略・順不同）



★ ご寄付いただいた方々

(コンビニの会)

松永玲子 中根勝見 矢崎正一
 石田文子 杉村華枝 塩澤しのか
 松岡香代 富永典子 林 あき子
 渡辺武司 伊藤 学 城所八重子
 中島温子 伊與田聡登史
 アイ 匿名
 (エゼル福祉会)
 ウイル親の会

★ 物品寄付をいただいた方々

(コンビニハウス)

織部未来 渡辺世津子 桑原諸彰
 塩澤しのか

(WILL)

原あゆみ 早川佳乃 塩澤しのか
 廣瀬治代 丹羽恵子 山口恵美子
 澤 幸子 菊地摩美 竹内まりや
 近藤愛季実 らいふケアしらつき

★ 活動にご協力いただいた方々

(コンビニハウス)

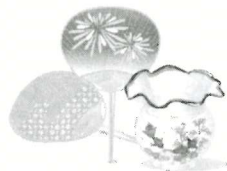
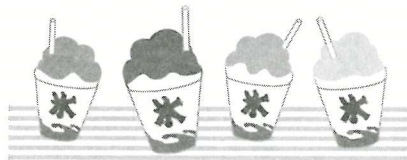
伊奈晶子 石原正寅 青木政治 芝田真理子
 加藤 結 辻本道子 桑原諸彰 寺田みどり
 高塚朱美 藤村亜子 山内麻衣 酒井まみ子
 間瀬敬人 楠村ゆき 中谷友紀 稲垣ゆき奈
 辻本有沙 竹内恵子 林 和子 高橋なおえ
 東原光江 田口陽介 川口香菜 茂手木利典
 山崎直人 山口愛加 峯 彩奈 神取優香
 小川阿弓 臼井裕香 河合尚武 黒田隆広
 梶田明宏 森田 衛 森島千絵 鍵谷美奈子

(WILL)

梶田明宏 森田 衛 武部 文

★ 会報発送ボランティア

佐藤美紀子 半田素子 吉田嘉子
 高松陽子 大嶋千波



購読料お振込への御礼

先号の会報購読料へのご協力に、早速たくさんの皆様からお振込を頂きました。

7月10日現在で89人から187,330円のお振込がありましたことをご報告します。

2口以上を振り込んでくださった方が多くいらしたことに深く感謝し、御礼申し上げます。これからも障害者福祉のみならず、様々な社会問題を提起し、多くの皆様にご購読いただけるよう、努力していく所存です。ありがとうございました。

「人参でみんなに笑顔を！」

「農業と福祉のイイ関係」

鈴盛農園 代表 鈴木啓之

愛知県碧南市という海沿いの町で農業を営む鈴盛農園の鈴木啓之と申します。

農家の生まれではない私ですが、6年前に「どうしても農業がやりたい」と会社員を辞し3年間の農業研修を経て農業界に新規参入いたしました。

鈴盛農園では【美味しく】【安全】な野菜のチカラで【幸せ】で【健康】なライフスタイルを提供します。【情熱】で日本の農業に新しい価値を！という経営理念を掲げています。

【日本の農業をカッコよく！】をテーマに、平均年齢30歳のスタッフ5人で約6000坪の農地を耕作し、カラフルな人参や玉ねぎ、芋などの根菜類を中心に約30種類100品種の野菜を育てています。

販売は自社のホームページや直売所での販売の他、産直施設やスーパーを中心に全量と名前が見える方法でお客様にお届けしています。

さて、ではなぜそんな農業者がコンビニの会の会報に筆を走らせているかといいますと、現在鈴盛農園の名物となっている加工品「にんじんジャム」をエゼル福祉会の利用者の皆様に作っていただいているからです。

人参といえばまだまだ苦手な人も多い野菜ですが、鈴盛農園の人参は旬の時期になると糖度が9〜11度もあり、フルーツのように甘い！というお客様の声をいただいています。

野菜嫌いな子供さんにもっと手軽に食べてもらいたい、と妻が人参をジャムにして道の駅やファーマーズマーケットでの販売を始めたところじわじわと人気が出て、生産量が追い付かなくなりました。



そんな時、食品関連の異業種交流会でエゼルさんと出逢いジャムの委託生産をお願いする事ができました。

通常、農産物の加工品は機械を利用して大量生産をするため、人間の手仕事の入る隙間が無く無個性で単一的な商品になりがちです。

個性と魅力のあるジャムにするため、理想のところみ具合や、味、色など綿密な打ち合わせの結果、エゼルさんは私たちのお願ひ通りの丁寧な仕上がりのジャムを作ってくれました。



増えてきました。

三河地区の道の駅や産直店舗の他、インターネットでの販売も行っております。

ちなみに農園のテレビ取材の際には名古屋出身の女優 佐藤仁美さんにも食べていただき「コレ美味しい！びっくり！」と喜んでいただけました。

近頃、農業と福祉の連携である農福連携という言葉を耳にする機会が増えていきます。

農産物の加工などの六次産業化や、耕作規模拡大に伴う人手不足に悩む農業者が、仕事を探している就労系福祉サービス事業所など

それから

う3年のお付き合いになり、今ではオレンジ色のみでなく、黄色や黒のにんじんジャムと商品のラインナップも



<http://suzumori-farm.jp>
鈴盛農園ホームページ

これからも私たちが安全で美味しい野菜を育てて、エゼル福祉会の皆様に美味しいジャムを作っていたらという農福連携の関係が続いていくと嬉しいです。

の利用者さんと手を組む事で雇用を生み出し、お互いにとってメリットのある関係性を作っていくというものです。エゼル福祉会と鈴盛農園の取り組みはまさにこの関係ではないでしょうか。



銀行口座

三菱東京UFJ銀行 小田井支店 店番 238 (普) 口座番号 1440108

特定非営利活動法人 コンビニの会

郵便振替口座 番号 00800-2-35190 コンビニの会

ご意見・ご質問・お問い合わせは下記までお寄せください。 〒452-0822 名古屋市西区中小田井 2-431
障害のある人たちの地域生活を支援する
特定非営利活動法人

コンビニハウス Tel (052) 502-7731

Fax (052) 505-6082

コンビニの会

理事 宮川 優子

URL <http://ezeru.sakura.ne.jp/>

E-mail convini@beach.ocn.ne.jp